

【体が警告！ 背中への痛みを潜む病気】早期段階では無症状の胆道がん 治療ではI V Rが役立つことも多い

健康・医療

2022/5/27 06:30

背中への痛みを引き起こす内臓の病気では、胆石症も関与することがある。今回は、肝臓で作られた胆汁を運ぶ胆道や、胆汁をためる胆のうと背中への痛みについて考える。

「胆石症では、必ずしも背中への痛みは伴いません。むしろ、胃炎と思って受診されて胆石が見つかるケースもあります。ただし、胆道がんで背中が痛むこともあるので注意が必要です」



胆石など胆道の病気は脇腹痛のほか背中への痛みを伴うこともある

こう話すのは、東邦大学医療センター大橋病院消化器内科の渡邊学臨床教授。肝臓や胆道などに関わる病気の診断・治療を数多く手掛けている。

胆汁をためる胆のうに、結晶化した石が生じる胆石と、胆のうの出口や胆管を詰まらせる胆管結石（または総胆管結石）で、痛みや黄疸（おうだん）などの症状を引き起こす。みぞおちや右脇腹付近の激痛が一般的な痛みの症状だが、背中に痛みを感じる人もいる。治療法は、外科的に胆のうを取り除く、あるいは、薬によって石を溶かすなど確立している。しかし、胆道がんは難しい。

「胆道がんは、胆道に沿ってがんが生じるため、早期段階では無症状のことが多い。がんで胆管が塞がる胆管閉塞で胆石のような症状（黄疸や痛み）が生じることで、見つかるケースも珍しいことではありません」

進行した胆道がんでは、手術ができない場合、薬物療法や放射線治療などが行われる。渡邊医師は、胆道がんで閉塞した胆道にステントという医療機器を入れるなど、胆汁の通り道を作るI V R（別項参照）治療を得意としている。

「I V Rにはさまざまな治療法があります。肝胆膵領域のがん治療では、I V Rが役立つことも多い。背中への痛みは、進行した膵がんでも見られますが、医療は日進月歩で進歩しています。医療機関を早めに受診していただきたいと思います」

胆石症のリスクは、脂質異常症や食生活の乱れ、急激なダイエットなどが関係するといわれる。

一方、胆道がんは、食生活との関連はよくわかっていない。ある種の化学物質を高濃度で浴びたときや、生まれつき胆管の出口と膵管の出口に異常がある場合、リスクが高いとされる。しかし、普通に生活をしていても発症する人はいる。

「胆道がんに関わらず、食生活の乱れは、さまざまな病気のリスクを高めるのでよくありません。脂肪肝を放置し、非アルコール性脂肪肝炎で70～80代で肝硬変になり、背中ของ痛みにつながるような病態を引き起こすこともあります。食生活の見直しは重要といえます」

暴飲暴食をしても「今は痛くないから大丈夫」と甘く考えていると、近い将来に激痛に見舞われることも…。あすさらに詳しく紹介する。 （取材・安達純子）

■渡邊学（わたなべ・まなぶ） 東邦大学医療センター大橋病院消化器内科臨床教授。1981年東邦大学医学部卒。米・南カリフォルニア大学肝臓病センター留学、東邦大学医療センター大森病院消化器内科准教授などを経て、2017年から現職。肝臓病の診断・治療、特にIVR（インターベンショナルラジオロジー）治療を得意としている。

■ IVR治療とは

IVRはインターベンショナルラジオロジーの訳。X線やCT（コンピューター断層画像）、超音波などの画像診断装置で体内を見ながら、細い医療機器（カテーテルや針）を入れて標的となる病気の治療を行う。血管のつまりから、がん治療まで幅広く対応。さまざまな医療領域で欠かせない存在となっている。※日本インターベンショナルラジオロジー学会（日本IVR学会）資料より